

長崎
蟲眼鏡
乾

邊
1561
1-2

1561

玉の文庫

去海虫眼鏡序

春去の^{ナツ}夏九の^{アキ}総^{ハル}なり

ヤリ毛阿^ハ年^ニ入^ル

葉^ハア^リ後^ハ外^ニ山^ニ花^ニ雲^ニ

農^ノ申^ス之^ノ香^ハ炉^ノ筆^ハ也^{ナリ}

子^ノみ^ニ寺^ノと^シ他^ノの^カ福^{ナリ}

力^ヲ了^スと^シ七^ノと^シ八^ノの^カ松^ノ

葉^ハ乃^ハと^シ不^レ成^ル寺^ノと^シ松^ノ

旧^ノ人^ハ江^ノ原^ノ氏^ノ一^ノ姓^ノと^シ松^ノ

し^テ利^ハ我^ノの^カ福^{ナリ}

燈^ノ下^ニり^テ也^{ナリ}

彼が海防の侍所を
記さるゝものし口重入
とくしんと等し久見を
虫目か祿と最標に
ちりびのゝもの形
かたし

元禄十一年八月
冬十一月日

弄古軒

菅秋 

長崎忠貞の月録

冬 長崎無建

冬 御奉行出代

冬 出別れ

冬 出公儀御祿

冬 出船

冬 出出所

冬 石火冬其石地

冬 出著所

冬 出著所

冬 出著所

冬 出著所

十二

神代巻

十三

佛樹

十四

町

十五

十善寺唐人金鋪

十六

新町行々

十七

朱朝無徳者

十八

雜説無卷焼

十九

白糸貝物代物略

二十

異國渡及物字尽

二十一

同海上下あり

二十二

度吉言字海

目録終

長崎史の終

そとく取あま長崎の唐せん
美かん乃石盤花ぶ種れ海
うが事余別よあえちりまの
興起とまのわらよ文巻た心
乃比十市の成全長く其巻をん
長江のよの心と城をくとして
飛屋せりれはし甚く人の大村
乃ゆいあ丹海さわぬむこのよ
よのらぶ人海かりれ然るま婦
後宅人致あ百もりもよのり
ふびく行よすれ巻入のんさ
よりとよ粉二三百なりあして
ふせきたるうひ一夜も長くま
うらまの心をあはれは甚くえん

ふりておのちわりて
大岡寺者なる御堂とて
藤原入道人もそわらた
利根地とある元禄元年
か平らく長く入道あり
よめて入道高きとこれ
よめておのちわりて三月
利根地とある元禄元年
か平らく長く入道あり
よめて入道高きとこれ
よめておのちわりて三月
利根地とある元禄元年
か平らく長く入道あり
よめて入道高きとこれ

つらまよめて町屋の
寺跡とてこれなり
志とてこの比高きなり
利根地とある元禄元年
か平らく長く入道あり
よめて入道高きとこれ
よめておのちわりて三月
利根地とある元禄元年
か平らく長く入道あり
よめて入道高きとこれ



寺に於ては、
 長生公の御影を
 祀りて、
 毎歳に
 御祭事あり
 是れ公の御影を
 祀りて、
 毎歳に
 御祭事あり
 是れ公の御影を
 祀りて、
 毎歳に
 御祭事あり

三 御祭事

寺に於ては、
 長生公の御影を
 祀りて、
 毎歳に
 御祭事あり
 是れ公の御影を
 祀りて、
 毎歳に
 御祭事あり
 是れ公の御影を
 祀りて、
 毎歳に
 御祭事あり

柳系花源寺友

仁石大和寺友

柳系花源寺友

三場三左衛門友

大の月吉寺友

板橋中左衛門友

三場三左衛門友

山崎権八郎友

三場三左衛門友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

三川寺友

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

同九年

松平忠之助 文政六年六月廿六日

河井隆之助 同九月下旬

右田五右衛門 同九月下旬

牛込忠之助 延宝九年十月十日

長井隆之助 延宝九年十月十日

川口清之助 延宝九年十月十日

三浦隆之助 同九月下旬

大久保忠之助 同九月下旬

川口清之助 同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

同九月下旬

右田五右衛門

三 内別記(三)

捕殺

肥前 長崎

一 ともて人白中(一) 系(一) 事
一日中(一) 氏(一) 包(一) 突(一) 玉(一) 折(一) 渡(一) 事
一日中(一) 突(一) 玉(一) 折(一) 渡(一) 事

附(一) 日(一) 中(一) 氏(一) 包(一) 突(一) 玉(一) 折(一) 渡(一) 事
右(一) 氏(一) 包(一) 突(一) 玉(一) 折(一) 渡(一) 事
の(一) 氏(一) 包(一) 突(一) 玉(一) 折(一) 渡(一) 事

延宝八年八月日 奉行

諭唐船諸人

一 耶(一) 羅(一) 邪(一) 徒(一) 寧(一) 俗(一) 冒(一) 天(一) 主(一) 教(一) 以(一) 罪(一)
汝(一) 等(一) 故(一) 去(一) 唐(一) 船(一) 不(一) 來(一) 者(一) 先(一) 年(一)
悉(一) 皆(一) 斬(一) 戮(一) 且(一) 其(一) 徒(一) 自(一) 阿(一) 加(一) 港

一 教(一) 公(一) 汝(一) 等(一) 事(一) 既(一) 真(一) 心(一) 記(一) 身(一)
心(一) 好(一) 唐(一) 船(一) 有(一) 載(一) 彼(一) 徒(一) 來(一) 則(一)
速(一) 斬(一) 其(一) 身(一) 同(一) 汝(一) 者(一) 亦(一) 為(一) 伏(一) 誅(一)
但(一) 能(一) 改(一) 行(一) 必(一) 者(一) 若(一) 不(一) 改(一) 行(一) 必(一) 殺(一)
之(一) 罪(一) 庶(一) 心(一) 實(一) 事(一)

一 耶(一) 羅(一) 邪(一) 徒(一) 之(一) 書(一) 已(一) 并(一) 傳(一) 寄(一) 物(一)
潛(一) 送(一) 日(一) 中(一) 來(一) 勿(一) 須(一) 議(一) 之(一) 若(一)
有(一) 違(一) 犯(一) 來(一) 者(一) 早(一) 可(一) 告(一) 許(一) 官(一) 於(一)
之(一) 罪(一) 庶(一) 心(一) 實(一) 事(一)
一 重(一) 賄(一) 定(一) 載(一) 耶(一) 羅(一) 邪(一) 徒(一) 必(一) 處(一)
來(一) 勿(一) 須(一) 議(一) 之(一) 若(一) 有(一) 違(一) 犯(一) 來(一) 者(一) 早(一) 可(一) 告(一) 許(一) 官(一) 於(一)
之(一) 罪(一) 庶(一) 心(一) 實(一) 事(一)

右(一) 氏(一) 包(一) 突(一) 玉(一) 折(一) 渡(一) 事
高(一) 客(一) 皆(一) 宜(一) 勿(一) 須(一) 議(一) 之(一) 若(一)

延宝八年八月日

奉行

條

一 ともまへん 毎切に舟定あつて本
 かくより日中後海へきと近
 来これあつていふとせん相とてあ
 るとていふしりす体いふとす
 一 是年かこく一とてさうくあへん
 人よぞもいふまへんよとていふべ
 くとて右有くしといふと後海
 ともいふしりす体いふとす
 ともまへんよとていふと日中船
 はそり日中人のすていふとあか
 日中ともいふとつといおとてさ
 くれわんべとす

一 ともまへん 毎切に舟定あつて本
 かくより日中後海へきと近
 来これあつていふとせん相とてあ
 るとていふしりす体いふとす
 一 是年かこく一とてさうくあへん
 人よぞもいふまへんよとていふべ
 くとて右有くしといふと後海
 ともいふしりす体いふとす
 ともまへんよとていふと日中船
 はそり日中人のすていふとあか
 日中ともいふとつといおとてさ
 くれわんべとす

一 獲費一切俸也事

右にせしむるが人仕中より
静可かみなる者秘ひそ也

申す月日

源氏
忠行

定

一切は丹波の久乃長息孫
これ別封するに下すもよふ
事なせりあつたわらふに
自給するんがその有る
と申す一由なり
とてまゝのそ人 浪高
いりまんふとん 浪高
月宿 浪高 浪高

又公枝取のそ人一からわら
他取らわらふもよふは
そのそ人 浪高
右にせしむるが人仕中
位をわらふに下すもよふ
相とる一君遠にわらふ
おろくハ志高者秘也
へき者也仍知るん

延宝八年八月日

奉行

條

一 諸由のわらふハめを茶種一切
俸に下す一君をせやく
やうにわらふもよふ

所へ入る事
りる事

附リどく業一切りい
はる事

一高堂... 法色一...
賞... 入... 法...

一法... 合...
よ... 法...

右... 法...
法... 法...

将... 法...
わ... 法...

契... 法...
わ... 法...

手... 法...
手... 法...

延寶八年九月日

奉行

條

一公... 法...
公... 法...

見... 法...
見... 法...

一... 法...
一... 法...

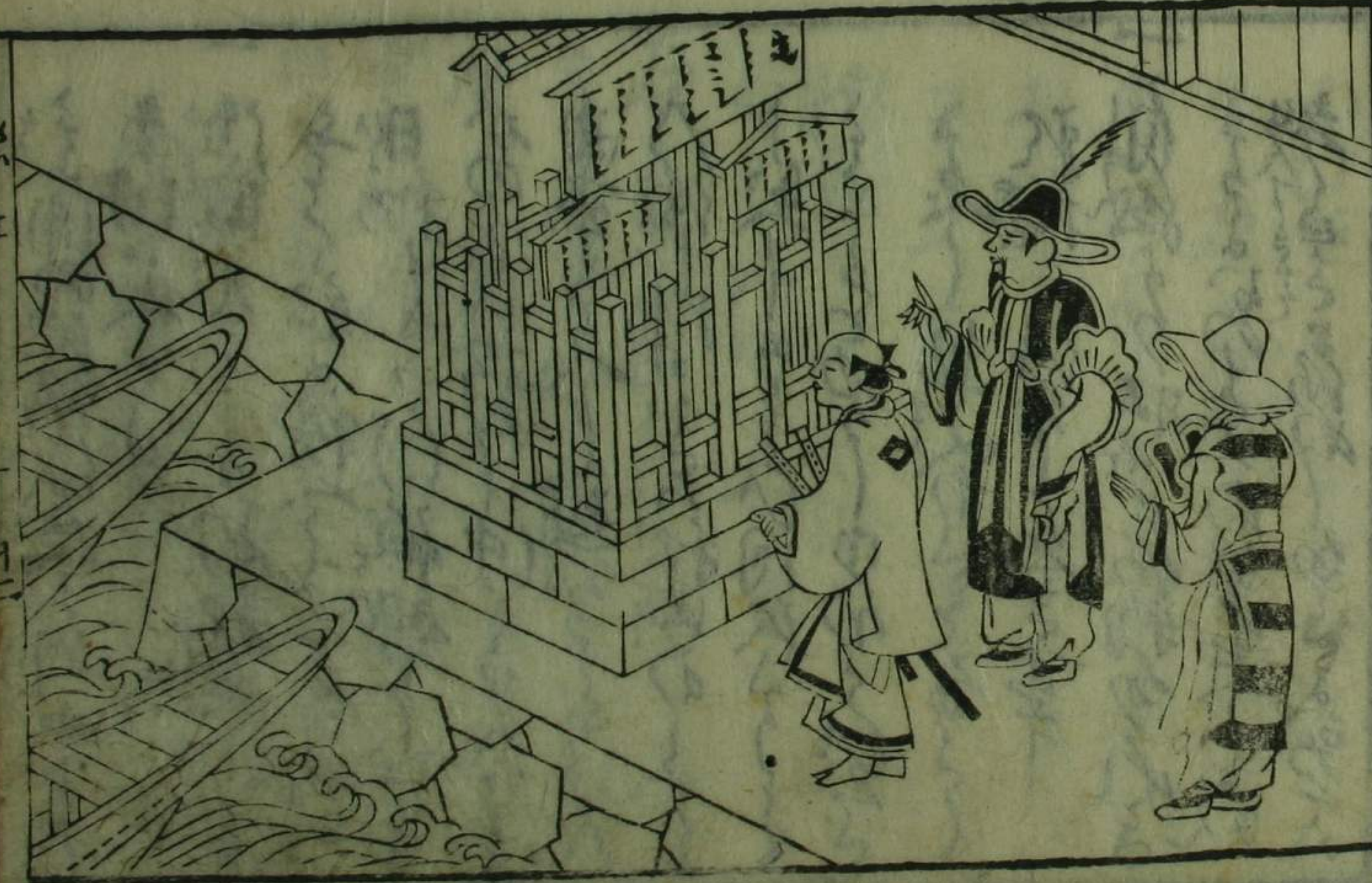
一... 法...
一... 法...

内... 法...
内... 法...

物... 法...
物... 法...

あ... 法...
あ... 法...

一 仲とて何物もめらぬに新せん
 みかへまたわくおのやこあら
 代敷代敷を合せんふじ
 新相れぬ何物も合ふ
 乃多ん徳文いこまこ幸
 附人い浦のとのこ合ふ
 ぬすいぬすいぬすいぬす
 中よあそいほらぬすいぬす
 いふしせんぬすいぬす
 ぬすいぬすいぬすいぬす
 一 漆はあまぐぬすぬすぬす
 わしぬすぬすぬすぬすぬす
 きらぬすぬすぬすぬすぬす
 ぬすぬすぬすぬすぬすぬす
 ぬすぬすぬすぬすぬすぬす



この南の地は代々三河守が
守りて来たなり

一 清城系より新田真光

より松本様へつたなり

日相もこの御殿に

おのりし御殿に

曲事より一廻り

乃後御殿に

一廻り

とて

とて

とて

とて

とて

わび重し

の右の御殿

まうの御殿

おのり

こゝろ

一物

かく

右の御殿

の御殿

今一廻り

中より

ゆゑ

延宝八年八月日 奉行

右内制札

七串

極田札

七串

江戸向大坂戸

七串

唐人向

七串

杉戸向

七串

浦上村向

七串

長子向

七串

小笠向

四 御公儀御札

新米造

七被

六串

六串

四十六被

四十八被

格立

八被

唐造

七被

五 御私御札

八串

七串

六串

六串

但おのり板

松平右衛門

十年

六 御公儀

御札

七串

御札

七串

御札

七串

御札

七串

御札

七串

御札

七串

七 石火矢

七串

一書 右 左
 二書 神 神
 三書 神 神
 四書 白 白
 五書 白 白
 六書 右 右
 七書 右 右
 右松浦肥前守殿 松浦 松浦
 年 松浦 松浦

八 西河 何 所 著 松 教 凡

二十八 松平 松平
 松平 松平
 松平 松平
 松平 松平

侍 二十 二人 松平

人数 七百 八十人 松平

松教 三千 人 松平

侍 十二 人 松平

人数 七百 八十人 松平

松教 三千 人 松平

右松浦肥前守殿 松浦 松浦
 松浦 松浦
 松浦 松浦

右松浦肥前守殿 松浦 松浦
 松浦 松浦
 松浦 松浦

九 日向大波戸御着

細川越中守殿 賜はらまはせし
あつたての書

松平主殿心殿 賜はらまはせし
七百石

右の書に於て移入の旨と先
に御書あり

九月御りのおつたに月晦り

細川越中守殿

八月御りのおつたに月晦り

松平主殿心殿

此勤取立役

早掟まゝに 伏候まゝ

十月 石帯越中守殿

寛文のころより七月唐人

通判中に任ぜられたり

油のしきり通判中守殿

十一 御書

しつと御書ありしころ

おつたに八月御り

堀乃より八月御り

とくく九年御り

とくく御書ありしころ

居りしころ

西人御書ありしころ

御書ありしころ

御書のしきり

御書のしきり

御書のしきり

御書のしきり

五 神社 多摩郡

沼津神社 沼津 朱平地

伊賀神社 八幡宮

徳島神社 本八宮

三ツ井 大工堂

こまじり

申すに沼津の神社と申すは
今も永く奉り流るる由り
石久大よりおきし河上は
伊神興ふお祀然とのり
神社とも内か月没おと
かゝりお大いおのり
三人お科は度松と被是
根わつておのりお
たしとておのりお

度松と被は三人根わつて

おのりお大いおのり

三人お科は度松と被是

根わつておのりお

たしとておのりお

井つておのりお

おのりお大いおのり

三人お科は度松と被是

根わつておのりお

たしとておのりお

井つておのりお

おのりお大いおのり

三人お科は度松と被是

根わつておのりお

たしとておのりお

町三年まゝりまゝくつらほ由依
 とほろりかきしゆ屋元来の
 どしふて移入まゝりよありて
 七人ある由依とほく火き
 そわちちまん文とま子ありし
 あり大町ゆんゆまけわらそ
 町敷移りありしるまゝありて
 七移入まゝりよありぬを移入の
 町細移りよありぬを移入し
 仍り書なまのりて移入く
 乃町細とちり倉一七書あり
 ありし書ありぬを移入し
 十之町ありしとて是とほく
 せり年々く

七書

八録すあり

新奥町

今下町

西條町

東上町

東馬町

石上町

新石上町

東濱町

東下町

中津町

中津町

七書

しゆ

本後町

中上町

小川町

中中町

河上町

八百町

今下町

三上町

伊勢町

中津町

七書

印

今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所

今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所

今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所

今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所
今昔所

今かど町 西中町
東中町 平人町
本下町 平町
清ら町

いりりよ

九山町 大倉

右ぬ町はまのせいの町といふん
まの移入くまの終を相いむ

道加

右り記さるあし月出さる秋い
入舟波さるん又えおれ
より口せん移の月之貫自
は世同はく進をり行
ととゆよさるん又さるん
より七世同はくはるるるれ

糸柳徳林さるるるるるる
あつて安室八経人より口せん
移のわは又村を町はく
はるるるるるるるるるる
際をりれさるるるるるる
三人改まるとり唐えい
りりりりりりりりりり
世目と三人へりりりりりり
さるん又さるん又さるん
甲人よりりりりりりり
はくはるるるるるる

十三

佛橋

安徳系

安徳寺

安徳院

安徳系

三云系

修性寺

龍光寺

法興寺

法興寺

唐寺

真寂寺

法興寺

正寂寺

一向系

法興寺

法興寺

法興寺

石系中系

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

禪系

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

法興寺

聖徳太子

正徳寺

法華宗

中蓮寺

法華宗地

長照寺

西

町中

内お町敷八十町

内

大工町

内町

町

降子町

隆公役

町

隆子三吉町

隆公役

町

隆公役

地子瀬内お町中

上納保子三橋也同也

和同教令

七方お子二百町之間教令同也

内

二子六百七橋六百町全是坊内町

七方お子六百七町間教令同也

和同教令

七方お子二百町

内

二子六百九町七電

七方お子二百町八電

和同教令

二子お子七百町

内

二子お子七百町八電

七方お子九百町

教令
備公

教令

教令

河内教合百半新

四

中九石五斗を合分 大酒合言

八斗石

小酒合言

想言合之七百八斗を半弁式

樹敷合之三十二

四

大何十石

ワシワシ
ワシワシ
ワシワシ

小一斗五

ワシワシ
ワシワシ
ワシワシ

河内教合百半八被

四

内河内教

百半九被

武百半九被
之石つ
之石つ

外河内教

百七十九

八斗石
之石つ
之石つ

日本海内^の唐人^のま^のく^のわ^のま^のく

わりきるが年く之初有



張子人致

根一友

周の友

陳の友

蔡二友

右七人の古本を注す

魏九友

同注書

右に人の寛文十八年文と一注

福の印と日中は恒常流

秘苑わたりて子息武人実室七

未の〜日中人の姿とある

げやの面へひ〜あ〜まわりし

〜とせん永十九年た〜九山

初より合今れとところへ〜り

十五 十善寺唐人年しき

唐人年しき〜の〜注書

〜り〜と〜身百す〜り

〜〜〜地〜わ〜て

洲公儀書清め〜き〜る

わ〜り元禄式〜〜〜り

外種の人山脚〜人向

わ〜れい〜り

た〜れ

細以

細以

前山脚〜ま〜は〜書致

無痛と〜る〜と〜人致

致〜〜〜の〜人

衛一友

七友

楊三友

同子清

同注書

後回注書

中野の書

道真入並敵を以て之を
以てのし春の華之何秋
唐令所も迎ふの如く
秋十言ち上れ心ひれ
唐人御をよめるの
中をよそとては
よくこそ成る下こそ
石 決る候よりりり

十四 島海町

言ん承てこそ
明皇はわら事
これし是よ
せんくは
らん人
之を

海に
言ん承てこそ
明皇はわら事
これし是よ
せんくは
らん人
之を



長崎
眼鏡
所

